

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 多気町	対談項目1 「アクアイグニス多気」計画に対する支援について		<p>「アクアイグニス多気」の現在の全体計画では、食に関するエリア、マウンテンバイクアウトドアエリア、日帰り温泉エリア、医療介護のエリアが計画されており、町としても連携して各種事業に取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>アクセス道路等について、三重県、国土交通省、ネクスコで検討委員会のようなものをしてもらっているが、ふるさと村の前を通っている県道からアクアイグニスの中を通ってR42に抜ける道路を県道バイパスという形で整備をお願いしたい。</p> <p>計画の中に、複合施設として商業施設も入ってくると1000人を超える雇用が発生し、多気町だけでなく中南勢地域の活性化にも繋がることから、中南勢地域への支援として、県道バイパス部分の整備をお願いしたい。</p> <p>森林整備、バイオマスに係るものなど、計画全体の中で県で拾える事業があれば、いろんな分野の支援をお願いしたい。</p>	<p>計画全体、道路、スマートインターも含め、企業誘致推進課が窓口をさせていただいており、また、道路企画課とともに多気町の勉強会に出席させていただいているが、施設がどんな形になっていくか、どういうスケジュールで具体化されていくのか、事業の具体化とともに道路を含め、県がどういう支援ができるのか、どういう役割を果たしていけるのかをよく相談させていただきたい。</p> <p>中南勢の活性化、雇用の起爆剤と期待できるため、引き続き勉強会に参加させていただきながら、事業の具体化の進展に合わせて、県がどういうことができるか具体的にそれぞれ相談させていただければと思っている。</p> <p>医食同源の中でライフイノベーション総合特区の支援措置の使えるものがあれば検討したいと思っているし、バイオマスの林業関係など、事業の具体化に合わせ関係課も増やしながらかつて対応していきたい。</p> <p>企業誘致推進課が窓口となり、聴き取りをさせていただきながらともに進めていきたい。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
2 多気町	対談項目2 子育て支援策について		<p>町内で子育てのニーズ調査をやった結果、自然の中でのびのびできるような自然派保育園という思いを持つ方が第1位であった。その結果を受け、また私も以前から自然派保育園を作りたいとの思いがあり、また、町立ではなく民設民営でと話をしたところ、事業者が2、3手をあげていただいております、県の子ども局長に話をしに行ったところである。候補地は自然派と言いながら、町中(マックスバリュ裏の竹藪)に60人規模で計画をしている。</p> <p>多気町は、一部計画人数を超えていたが、調整の結果、現在待機児童は無い。こういうところへも県の助成を同じようをお願いしたいと先般要望をさせていただいたところ、子ども局長の話では、むずかしい話ではないといっていたので、知事の考えもお聞かせいただきたい。</p>	<p>保育所の整備については、平成27年度国の概算要求でも計上されているため、基本的に現状と同様の制度で交付金が使えらると思っており、基準に照らしながらしっかり支援したいと思っている。</p> <p>自然派保育の重要性については認識しており、来年度、その効果を調査、研究する事業もやりたいと思っている。鳥取県、長野県では自然派保育に特化した認定基準を作ったり、独自の補助金を出したりしているので、それらについても研究しながら応援していきたい。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
3 多気町	対談項目2 子育て支援策について		<p>3年ほど前、旧多気町、旧勢和村の放課後児童クラブを一つに統合し、40数名くらいのクラブとなったため補助率は一番良かったが、その後人数が増え現在は80名を超え、県の補助金が半分くらいに減った。子ども局長に話をし、運用の仕方等で対応が可能との回答をもらったが、知事の考えをお聞かせいただきたい。</p>	<p>放課後児童クラブの助成の部分については、国がどういう形でやるのかが見えていない。県としては、いろいろな制度を見直すチャンスだと思っているので、国の制度改正をみて、それを補完できるような形での放課後児童クラブの助成制度のリニューアルを図っていけるよう検討している。</p> <p>国の国庫補助運営費の放課後児童クラブの補助は、国が人数によりガイドライン決めていることから、国の様子も見ながら、また運用部分でどう工夫すれば以前に近い国庫補助のレベルにできるか個別に相談させていただきたい。また、制度についても国の制度改正にあわせて、放課後児童クラブの制度、助成のあり方を県としても検討していきたいと思っている。</p> <p>国はガイドラインや報告書で決めているようなところがあるため、子育て対策、少子化対策については、地域の実情があり、その実情に応じて地域が考えることができるように変えてもらうことが重要と考えており、きちんと補助金が出るよう国と交渉もしながら、地域で考えさせてくれるよう少子化対策の流れの中でも国に話をしていきたい。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
4 多気町	対談項目3 バイオマス資源収集に対する支援について		<p>多気町では、平成28年度に中部プラント（中部電力の関連会社）のバイオマス発電所がスタートする予定で、昨年立地申込みがあり、正式な立地協定を10月末に予定している。これができる就多気町の世帯数の倍の世帯数の発電を賄うことになる。</p> <p>8月2日までに町内全域49集落を回り、道路に覆いかぶさっている竹や雑木をバイオマス資源として集めるシステムづくりをしていくため、町民の協力を依頼した。</p> <p>作業道具の調達方法、地域での技術講習会などについて、森林組合への協力依頼も必要となってくるが、指導、技術支援、作業器具の調達の支援について県からも支援をお願いしたい。</p> <p>集めた材料でバイオマスの資源になるのは1%いくかいかないかのごく一部で、ほとんどが松阪市のエネウッドからいただくこととなるが、最終的な主目的は雇用の開発と獣害対策に繋がると思っているのでご支援いただきたいと思っている。</p>	<p>燃料となる木質チップをいかに安定的に供給するかということが非常に大きな課題である。未利用であった間伐材の利用が原木価格が低迷していた中で、価格の下支えになってもらうような仕組みができてきたことは、林業活性化にも繋がっていくと思っている。県としてもバイオマス、みえ森と緑の県民税映画「WOOD JOB」もあり、来年度については林業の活性化を注力する課題として取組んでいこうと考えている。</p> <p>個人のグループの皆さんが、燃料となるものを集めてきていただいて、それを燃料に変えていくという提案をいただいた。我々としても原木をチップにするというだけでなく、枝葉や海岸に漂着した流木、河川のごみ拾いから出てきた木なども燃料に使用できないかというようなガイドラインを作ろうと思っている。</p> <p>資機材の使い方、技術的な講習など、供給量が増大していくような支援は県としてもしっかりしていきたいし、県だけで足りない場合は、多気町のみえ森と緑の県民税の市町交付金の中で使っていただくのも一つの方法かと思っている。</p> <p>いろいろな再生可能エネルギーがある中で、木質バイオマスは、一番雇用を生むものであり、地域の力を発揮しやすいエネルギーだと思っているので、多気町で新しい取り組みをやっていただけるとありがたいと思っているし、ガイドライン、技術講習会を含めしっかり支援していけるよう努力していきたいと思っている。</p>